

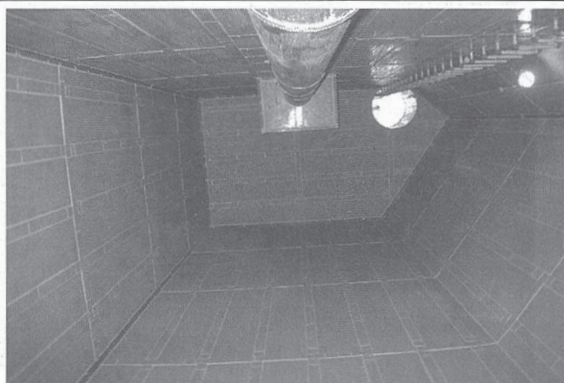
JER 補改修協会

# 補改修技術の専門集団

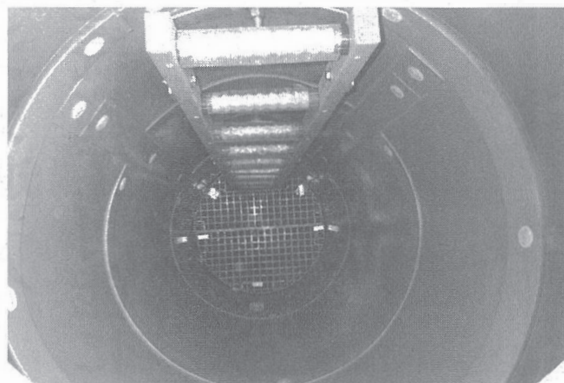
## 管路でも組織を強化拡充

JERコンクリート構造物の延命、保護を目的に、適材適所に補修・改修工法を提供しているが、特に過酷な腐食環境下に置かれる下水道の分野で豊富な施工実績を有している。日本下水道事業団の

JERコンクリート構造物の腐食環境条件や供用条件、維持管理特性等のユーザーニーズに応じて、最適な工法を選定できる。ユーザーニーズに沿った最適な工法の提供とともに、同協会が特色として打ち出している。



厳しい腐食環境下でも長期間効果を発揮



管路の補改修で専門部会を設置

のが、協会としての施工品質の確保、性能保証体制の確立だ。協会の施工には協会認定工法として性能を保証している。並行して技術講習や専門技術者の資格認定、技能士検定等も実施して専門の技術者を育成している。同協会はこれらの取り組みを通じて、第三者から信頼されるコンクリート防食技術の普及・発展を目指している。

# 協会として品質を確保

## 技術者の育成にも注力

JERコンクリート補改修協会の前身は、2002年に設立されたJER認定施工協会で、以来、同協会は下水道処理施設をはじめとする下水道コンクリート構造物の補修・改修工法のエキスパートとして、全国で実績を積んできた。また、ここに携わる施工会社、材料製造会社による調査研究及び技術開発の成果の検証を行い、協会として技術の普及活動を実施してきた。現在のJERコンクリート

補改修協会は、前身のJER認定施工協会のそうした経験を活かしたうえで、下水道処理施設に加えて、管路施設や農業用水路、橋梁施設等の社会資本ストックにみられる各種コンクリート構造物の長寿命化対策への活動にも積極的に取り組んでいく協会団体として、2016年6月に改名したものだ。同時に、

協会の分科会「管路部会」を設立し、下水道管路施設の長寿命化にも一層注力している。管路部会については2021年の12月に西日本支部が、22年1月には東日本支部がそれぞれ発足した。各支部の設立で都市部の管路やマンホールの更生工事に、より迅速かつ組織的に対応できる体制の構築が期待されている。

一般的に、下水道処理施設、管路、マンホールなどの下水道関連のコンクリート構造物については、耐腐食による供用年数の長期化のためにコンクリート防食被覆工法等による対策が施される。しかし、腐食・劣化の進行の程度は、施設・部位ごとの腐食環境によって異なる。こうした条件に鑑みて、同協会は、下水道コンクリート構造物の腐食環境と維持管理特性、施工環境等に適合性の高い適材適所の材質、工法の特長が検討された選択が必要となる。

こうした条件に鑑みて、同協会は、下水道コンクリート構造物の腐食環境と維持管理特性、施工環境等に対応する各種の材質によるコンクリート防食被覆工法を協会認定工法として取り揃え、現場環境に応じて提供している。

塗布型ライニング工法では、ジックライトIII工法（低臭気タイプ無溶剤エポキシ樹脂系）や、シックコート（シックコート）などがある。また、シックボード工法（FRP板とエポキシ樹脂による工法）や、シックボード工法（FRP複層板と無機質系モルタルによる工法）も取り揃えている。

また、管路部会では、下水道用マンホールを対象に、シックボード工法（シックボード）の技術をベースにした、複合マンホール更生工法及び防食工法の「シックボードM工法」と、下水道目立マンホール更生工法の「シックボードJ工法」をラインナップしている。

モルタルライニング工法では、ZモルタルKS500工法（耐硫酸モルタル被覆工法）を提供している。

一方で協会認定製品としては、劣化部除去後の断面修復材として使用する超微粒子高炉スラグ系の耐硫酸性モルタル「ZモルタルAR」等もラインナップしている。

これら各種工法・材料により、日本下水道事業団の防食マニュアルに示されている各種腐食環境条件や供用条件に対して、適材適所の工法選定ができ、施設の高耐久化が可能になる。

また、管路部会では、下水道用マンホールを対象に、シックボード工法（シックボード）の技術をベースにした、複合マンホール更生工法及び防食工法の「シックボードM工法」と、下水道目立マンホール更生工法の「シックボードJ工法」をラインナップしている。

また、管路部会では、下水道用マンホールを対象に、シックボード工法（シックボード）の技術をベースにした、複合マンホール更生工法及び防食工法の「シックボードM工法」と、下水道目立マンホール更生工法の「シックボードJ工法」をラインナップしている。